



平成23年2月14日

## 電車のドア、戸袋への挟まれ事故に注意！

～指を切断する事故も発生しています～

平成23年2月2日午後5時30分頃、都営浅草線高輪台駅において電車のドアが開いた際に、戸袋に引き込まれた乳児の右足を引き出そうとしていた男性客が、左手を戸袋に引き込まれ中指を切断するという事故が発生しました。

東京消防庁管内では、平成17年4月から平成22年12月までに、電車のドア、戸袋へ体の一部が挟まれる事故で614人が医療機関に救急搬送されています。

当庁では、添付のとおり類似事故の発生状況を分析し、再発防止を呼びかけています。

- 電車のドアへの挟まれ、戸袋への引き込まれ事故は、「戸袋への引き込まれ」が約65%と多くを占めている！
- 戸袋への引き込まれ事故の約45%が0～5歳までの乳幼児！
- 月別では、6月から8月の暑い時期に多く発生している！
- 時間帯は、朝夕のラッシュ時に多く発生している！  
特に、朝の8時台は他の時間帯に比べ突出して多く発生している。
- 「指の離断」「骨折」「開放創」などの大きな怪我につながったケースも！

詳細は、別添え資料をご覧ください

東京消防庁では、電車のドア、戸袋に係る救急事故の発生状況を注視し、注意を促すなど、都民の安全確保に努めてまいります。

問合せ先

東京消防庁 (代) 電話 3212 - 2111  
生活安全課生活安全係 内線 4206  
広報課報道係 内線 2345～2349

## 電車のドアに体の一部が挟まれる事故の発生状況

平成17年4月から平成22年12月までに、東京消防庁管内において、「電車のドアに体の一部が挟まれる」事故で614人が救急搬送されており、その発生状況については次のとおりである。

### 1 挟まれた箇所別の発生状況

挟まれた箇所は、「戸袋への引き込まれ」が全体の約65%を占め、次いで駆け込み乗車などで「ドアとドアの間に挟まれる」が約33%、つかまっていた「ドア枠上部の隙間に挟まれる」が約2%となっている。

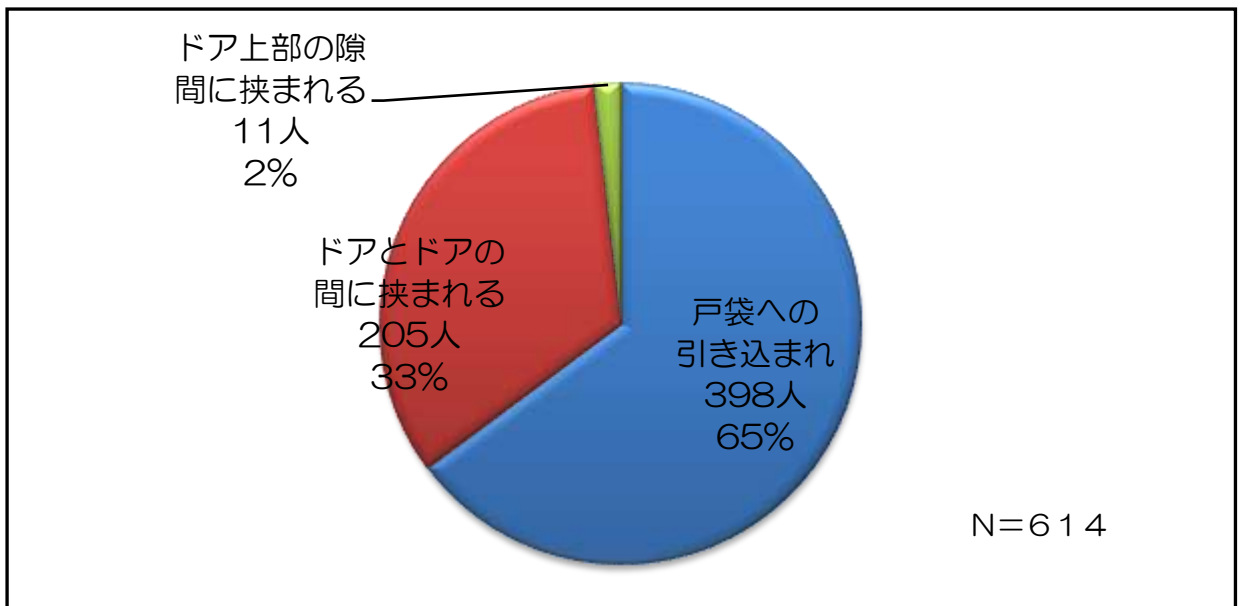


図1 挟まれた箇所別の発生状況

### 2 月別の発生状況

月別では、6月から8月の暑い時期に多く発生している。

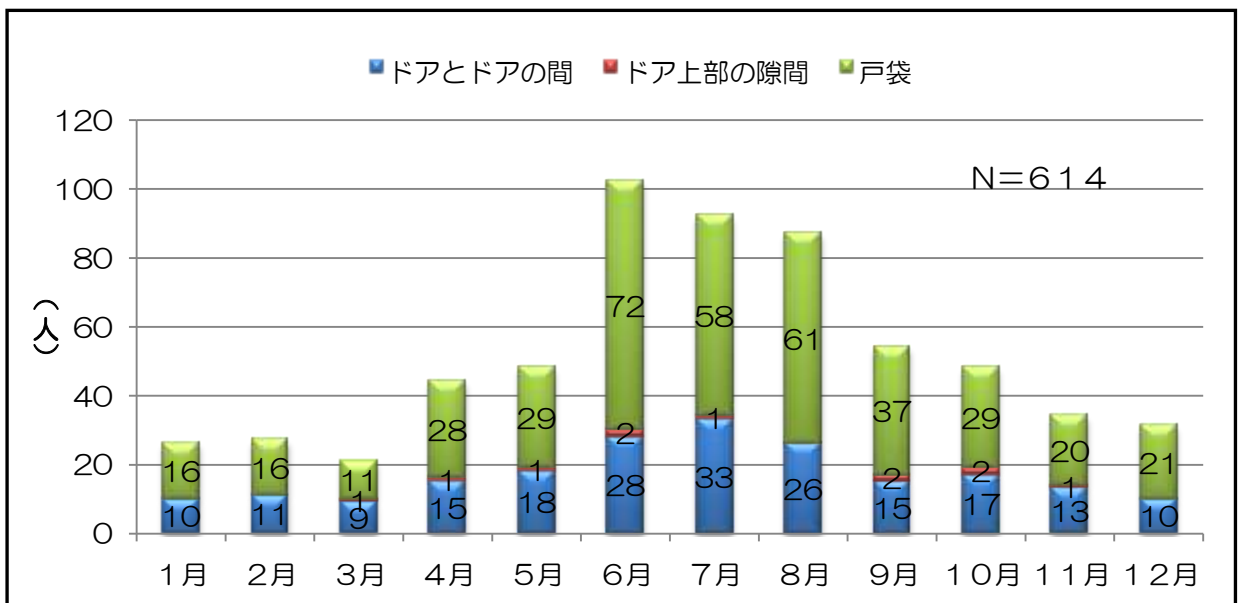


図2 月別の発生状況

### 3 時間帯別の発生状況

時間帯別では、朝8時台のラッシュ時に多く発生している。

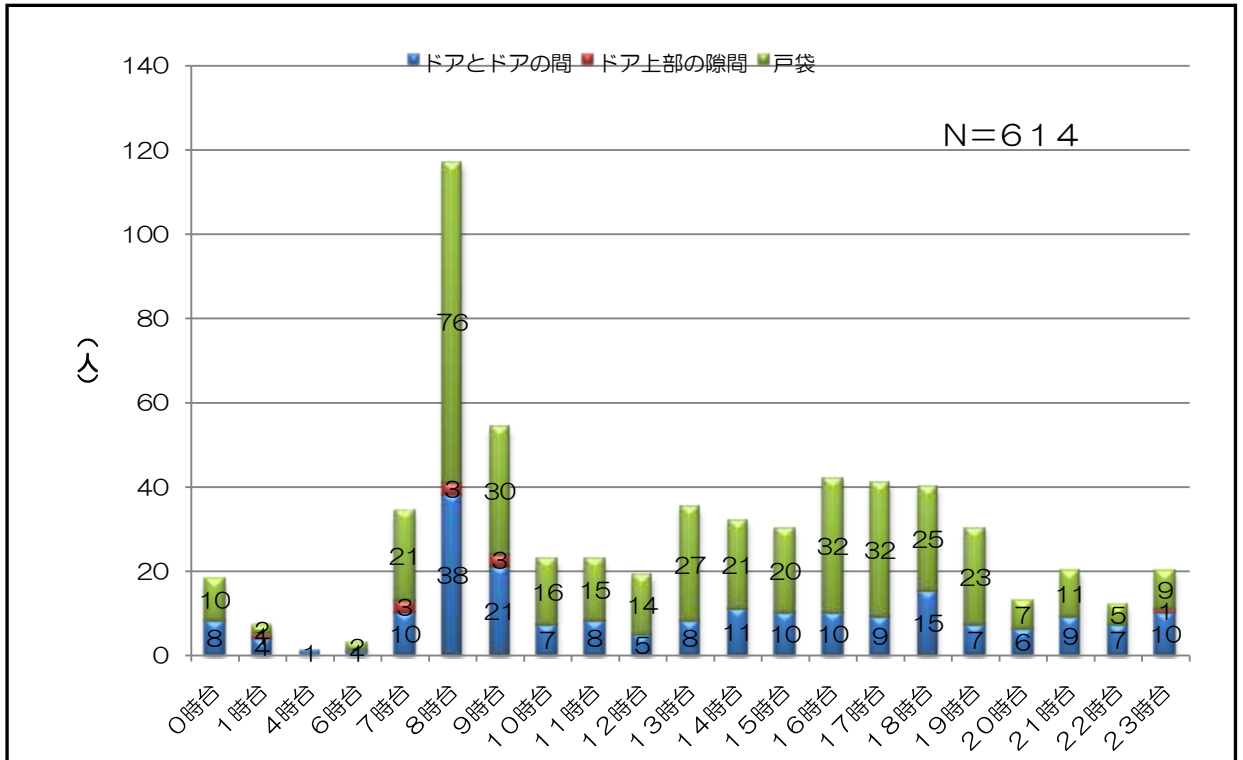


図3 時間帯別の発生状況

### 4 挟まれた箇所別の年齢区分別発生状況

挟まれた箇所別に年齢区分を見てみると、戸袋への引き込まれ事故の約45%が0~5歳までの乳幼児で発生していることがわかる(図4赤枠部分)。

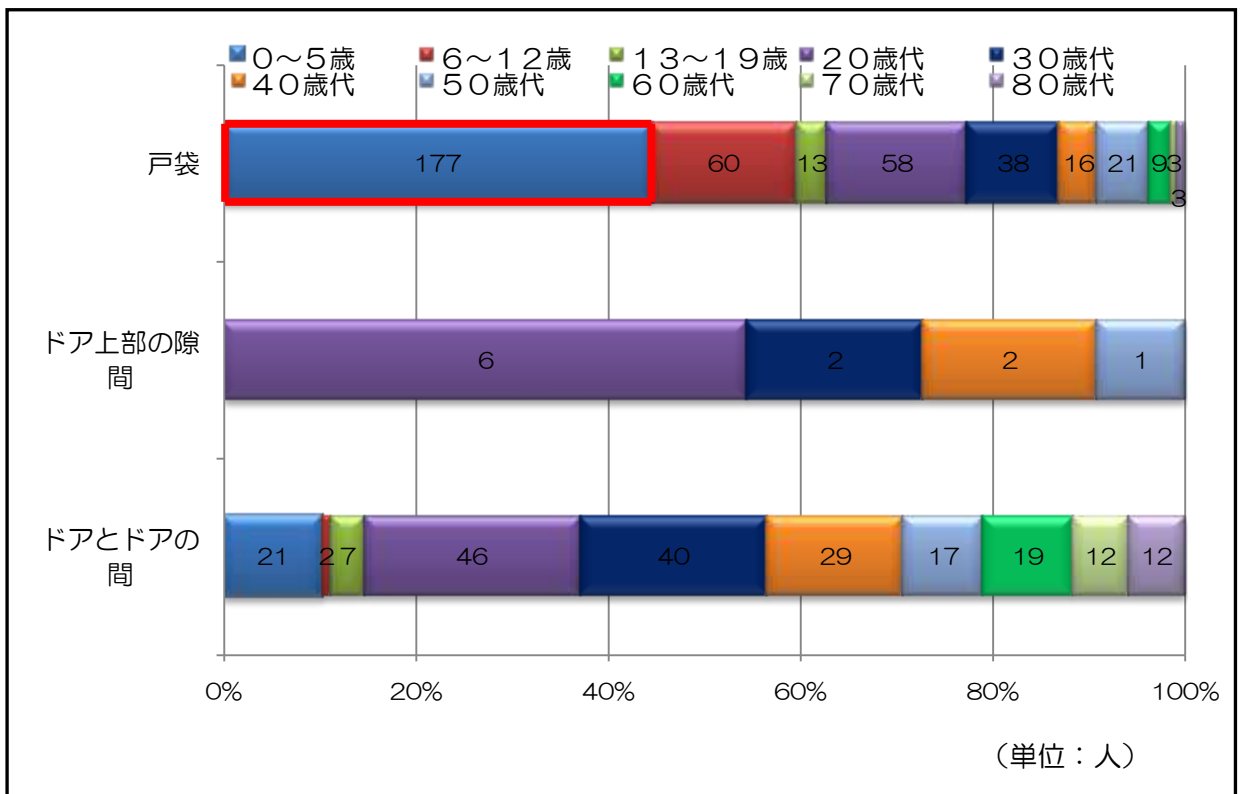


図4 挟まれた箇所別の年齢区分別発生状況

## 5 挟まれた箇所別の挟まれた体の部位

戸袋は、手や腕を引き込まれるケースが約94%（375人）を占めている。

ドアとドアの間は、手や腕を挟むケースが約60%（124人）と多くを占めているが、足や頭部なども挟まれている。

ドア上部の隙間は、すべての事案で手を挟まれている。

表1 挟まれた箇所別の挟まれた体の部位

（単位：人）

挟まれた箇所	手・腕	足	頭部	肩	胸・腹・ 背中	不明	計
戸袋	375	7	0	1	0	15	398
ドアとドアの間	124	32	23	4	6	16	205
ドア上部の隙間	11	0	0	0	0	0	11
計	510	39	23	5	6	31	614

## 6 負傷者の程度

負傷した人の病院搬送時の怪我の初診時程度を見ると、軽症がほとんどである。なお、今回の事故のように、指が切断された場合でも生命の危険がないと判断されれば、軽症もしくは中等症と診断されるが、傷病名の判明した430人を見ると、「指の切断」、「開放性骨折」、「非開放性骨折」、「開放創」などの大きな怪我也発生していることがわかる。

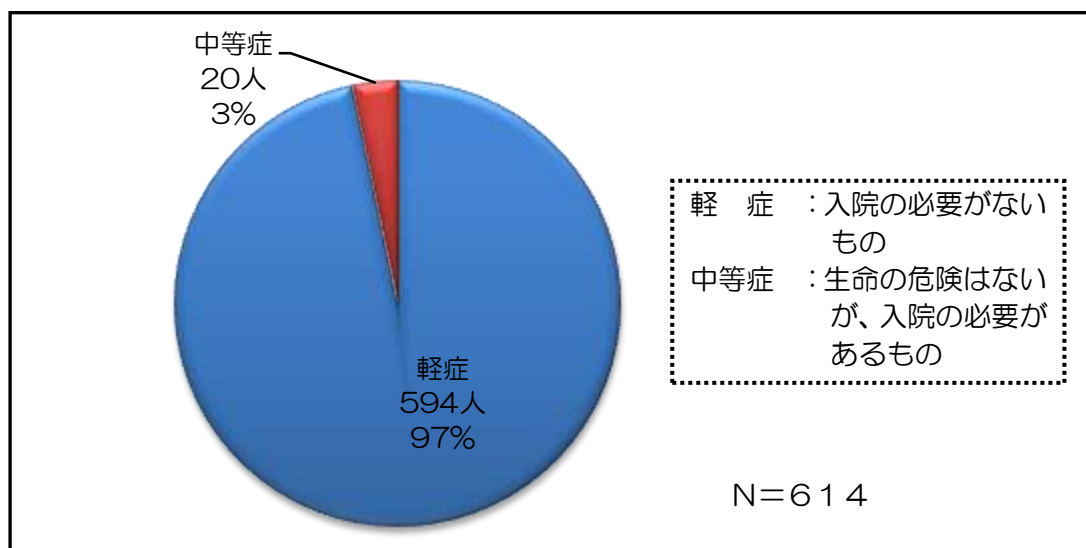


図5 負傷者の初診時程度

表2 挟まれた箇所別の傷病名

（単位：人）

傷病名	戸袋	ドアとドアの間	ドア上部の隙間	計
打撲・挫傷	262	114	4	380
開放創	12	14	4	30
非開放性骨折	3	9	0	12
脱臼・捻挫	2	2	0	4
開放性骨折	0	2	0	2
切断	2	0	0	2
計	281	141	8	430

## 7 挟まれた箇所別の主な事故事例

挟まれた箇所	内 容
戸袋	57歳女性が、ホーム上で停車中の電車に乗り込む際に、ドアに触れていたため、右手の親指が戸袋に引き込まれ、切断されたもの。 (平成20年6月渋谷区、57歳女性、軽症)
戸袋	祖母に抱かれた2歳女児が、電車から降りる際、左手がドアに触れていたため、ドアが開いたと同時に戸袋に引き込まれ受傷したもの。(平成20年1月足立区、2歳女児、軽症)
ドアとドアの間	86歳女性が、電車から降りる際に、閉まりかけたドアに足が挟まれ転倒し、左大腿部を受傷したもの。 (平成17年4月千代田区、86歳女性、軽症)
ドア上部の隙間	26歳女性が、朝9時頃、停車中の電車内にて、混雑の為倒れないように上方のドアレールに手をかけていた時に、ドアが閉まり左手母指を挟まれ受傷したもの。 (平成18年6月台東区、26歳女性、軽症)

## 8 事故防止のポイント

- (1) 戸袋への引き込まれ事故では、「指の切断」「骨折」「開放創」など大きな怪我也発生していることから、ドア開放時は、ドアに触れないようにする。特に、5歳以下の乳幼児は、手や腕を引き込まれ受傷することが多いことから、保護者は、電車のドアの開放時には子供をドアに触れさせないように注意する。
- (2) ドアとドアの間への挟まれ事故では、ドアの先端に緩衝材としてゴムが施されているが、「骨折」「開放創」などの大きな怪我也発生しているため、発車間際の駆け込み乗車や降車は絶対にしないようにする。特に、朝のラッシュ時など混雑する時間帯では、時間に余裕を持った行動を心がける。
- (3) ドア上部の隙間に挟まれている事例もあることから、混雑時などにバランスをとるなどのため安易にドア上部に手を置かないようにする。

東京消防庁  
救急相談センター

#7119 (携帯電話・PHS  
プッシュ回線)

24時間年中無休

救急相談・医療機関案内

その他の電話やつながらない場合は  
03-3212-2323(23区)  
042-521-2323(多摩地区)

急な病気やケガをした場合に、「救急車を呼んだほうがいいのかな?」「今すぐ病院に行った方がいいのかな?」など迷った際の相談窓口として、「東京消防庁救急相談センター」を開設しています。